

活動報告&講演&シンポジウム

子どものことは子どもに聴こう！

～すべての子どもにアドボケイトを～



☆講演会

講師 川瀬 信一さん

(一般社団法人子どもの声からはじめよう 代表理事・こども家庭庁参与)



3 / 17 (日) 14時～17時

広島市西区民文化センター大会議室A
& WEB 開催

ひろしまチャイルドライン子どもステーションは、2000年3月からチャイルドラインを開設し、子どもの話に耳を傾けてきました。2022年度(令和4年度)からは、広島県子供の権利養護事業を受託し、ここまで2年間、アドボケイト派遣センターとして、県内の一時保護所に保護されている子どもたちの話を聴いてきました。私たちが、アドボケイト活動の中で、子ども達から聴いたことを、社会に伝えると同時に、いま、全ての子ども達に「アドボケイト」が必要であるとの認識に立ち、この会を開催することにいたしました。多くの皆様にこの活動の主旨をご理解いただき、子どもの話を聴くアドボケイトとして活動して下さる人が増えることを期待しています。

☆活動報告

上野 和子 NPO 法人ひろしまチャイルドライン子どもステーション 理事長

☆シンポジウム

シンポジスト

川瀬 信一さん 一般社団法人子どもの声からはじめよう 代表理事・こども家庭庁参与

喜多 明人さん 子どもの権利条約ネットワーク代表・NPO 法人チャイルドライン支援センター元副代表理事

めぐろチャイルドライン代表早稲田大学文学部名誉教授・子どもの権利条約総合研究所顧問

金山 さよさん 一般社団法人子どもアドボカシーセンター広島理事・アドボケイト派遣センター広島所属アドボケイト・社会的養護当事者

コーディネーター

寺西 環江さん 弁護士、特定非営利活動法人ピピオ子どもセンター理事、アドボケイト派遣センター広島スーパーバイザー

参加費無料

★参加申し込みは、
こちらからお願いします。
もちろん、電話、メールでの
申し込みも受け付けています。



主催: 特定非営利活動法人

ひろしまチャイルドライン子どもステーション
子どもアドボケイト派遣センター広島

〒730-0013

広島市中区八丁堀7-11 広島 YMCA 気付

TEL/FAX 082-233-8655

事務局携帯 080-1564-2165

E-mail advocate.hiroshima@gmail.com

後援: 広島県・広島市・広島県教育委員会・広島市教育委員会

☆講演会

講師紹介

川瀬 信一さん

一般社団法人子どもの声からはじめよう代表理事。こども家庭庁参与。子ども時代を里親家庭、児童自立支援施設、児童養護施設で過ごす。元中学校教員(児童自立支援施設に勤務)。厚生労働省「子どもの権利擁護に関するワーキングチーム」、内閣官房「こども政策の推進に係る有識者会議」等に参画。

講師の紹介補足資料

虐待された子どもの訴えに耳を傾ける「意見表明支援員」の必要性とは…虐待を受けたある若者の体験

東京都では意見表明支援員が5区で導入され、一般社団法人「子どもの声からはじめよう」(江戸川区)で養成した人が江戸川区と中野区で週1回、板橋区では月2回、一時保護所などを訪問し、虐待などで保護された子どもの声を聞いている。意見表明支援員の養成講座を開いている川瀬信一さん=東京都千代田区で

同法人の川瀬信一代表理事(35)は、千葉県の子どもの養護施設出身。母親の虐待から逃れるため、小学6年で一時保護された時、児童相談所の職員に引受先を「里親がいいか、施設がいいか」と聞かれた。里親を選んだが、うまくいかず4カ月で一時保護所に戻された。それでも「意見を聞いてくれたので、納得できた」と振り返る。

2019年にあった千葉県野田市の虐待死事件では、一時保護された女兒が「家に帰りたくない」と訴えたものの保護が解除され、女兒が亡くなった。判断したのは川瀬さんを保護した児相だった。なぜこうなったのか。虐待の相談件数が急増する中、対応する職員数は微増だった。「構造的な問題だ」との思いに至り、支援員を養成するきっかけの一つになった。

支援員の活動には課題もある。訪問先の職員との意思疎通がうまくいかなかったり、支援員が子どもの気持ちに入り込みすぎ的確に判断できなくなったりする可能性もある。「支援員は1人で行動せず、監督者のもとチームで動くことが大切になる」と強調した。

☆シンポジウム

シンポジスト紹介



川瀬 信一さん 川瀬信一(かわせ・しんいち)

一般社団法人子どもの声からはじめよう代表理事。こども家庭庁参与。子ども時代を里親家庭、児童自立支援施設、児童養護施設で過ごす。元中学校教員(児童自立支援施設に勤務)。



喜多 明人さん

子どもの権利条約ネットワーク代表・NPO法人チャイルドライン支援センター元副代表理事・めぐろチャイルドライン代表、早稲田大学文学部名誉教授・子どもの権利条約総合研究所顧問



金山 さよさん

一般社団法人子どもアドボカシーセンター広島理事・アドボケイト派遣センター広島所属アドボケイト・社会的養護当事者



コーディネーター

寺西 環江さん

弁護士、特定非営利活動法人ピピオ子どもセンター理事・アドボケイト派遣センター広島スーパーバイザー

アドボケイトとは?

子どもたちの声を「聴く」役割の人をアドボケイト(意見表明支援員)と言います。子どもたちの声を聴き、その声を大きくする「マイク役」になり、子どもの思いを「代弁」する人のことです。

子どもアドボカシー事業とは?

全ての子どものには「言う権利」と「聴かれる権利」があります。子どもの話を傾聴し、マイク役になり、子どもの意見表明支援、子どもの意見が実現するまでの支援を行う事業のことをいいます。

